

アサンプション国際の 「キーワード」

アサンプション国際中学校高等学校は、カトリック校ならではの人間教育をベースに、国際的に活躍できる人を育てています。ここでは、先の対談で触れられていたアサンプション国際の「キーワード」について解説いたします。



アサンプション・チャリティ・デー

アサンプション・チャリティ・デーは11月の初めに学院あげてのチャリティ活動を行う日です。この日の収益金は交際支援や社会活動のために全額寄付します。また活動は、学院だけでなく、保護者の方や箕面市内の賛同団体の方とも一緒に奉仕活動を行います。



生きた英語教育

8ヶ国以上のネイティブ教員から生きた英語を学べます。多くの国々から来日した教員による、ユニークな英語教育や文化の違いなどに触れることができます。また、学国教員が多数を占める大学の英語教育にも大学進学前から対応できます。



世界に広がるネットワーク

アサンプション国際は交換留学をはじめとする海外のカトリック系列校との交流を積極的に行っているほか、「海外大学進学協定校推薦入試制度」により、アメリカ・イギリス・オーストラリア・カナダのなど、欧米40校の協定校への進学も可能です。



アサンプションPBL

アサンプションのPBL(Problem Based Learning)は、自ら課題を見つける力を身につけ、解決するための思考スキルを習得します。また、他者の意見を理解する力を養い、ディスカッションや研究発表などを通してアウトプットする表現力を学びの中で育成します。



アサンプション国際 中学校 高等学校

Assumption Kokusai Junior & Senior High School

交通アクセス | Traffic access



〒562-8543 大阪府箕面市如意谷1-13-23

TEL 072-721-3080

FAX 072-723-8880

<https://www.assumption.ed.jp/jsh/>



アサンプション国際中学校高等学校の取組みを伝える広報誌
「ハロー！アサンプション国際」

Hello! Assumption Kokusai

2019
夏号

特集 special feature

～丹澤直己 校長 就任記念対談～

アサンプション国際の 伝統とこれから



アサンプション国際中学校高等学校
Assumption Kokusai Junior & Senior High School

特集

special feature

~丹澤直己 校長 就任記念対談~

アサンプション国際の伝統とこれから

男女共学化と21世紀型教育の導入を柱とするアサンプション国際のスタートから3年。聖母被昇天学院の卒業生でもある丹澤直己が2019年度からアサンプション国際小学校・中学校高等学校の校長に就任。あらためてアサンプション国際の伝統や理念、そして教育改革について、宮本恵子理事長、高橋博副理事長とともに語り合いました。

■ カトリックの伝統校が取り組む教育改革。

丹澤校長：アサンプション国際には、カトリックの伝統校として、どのようなことが受け継がれているのでしょうか。



学院の理念を継承し、時代に合わせて教育改革を進めていくことが大切です。

宮本理事長：本学院では「世界の平和に貢献する人の育成」という理念のもと、国際的な視野をもって隣人愛を生きることの大切さを学びます。聖母被昇天学院の設立時、日本は戦後間もない頃でフィリピンのアサンプションから多大な援助と多くの人々から支援を受けました。そして日本が豊かになった今、次は私たちから世界へ、支援の手を差し伸べていくことが大切です。その一つが「アサンプション・チャリティー・デー」。一日奉仕の全収益を国内外に寄付する活動です。45年前に高校生の小さな取り組みからスタートし、父母の会が加わり、幼小中高全体に広がり、今日まで学院設立当初に蒔かれた「隣人愛」の種が大切に受け継がれています。そしてこれがアサンプション国際の伝統のひとつと言えます。

丹澤：アサンプション国際の伝統や理念は、今、取り組んでいる教育改革とどのような関連性があるのでしょうか。

高橋副理事長：アサンプション国際の教育の柱は、英語教育を中心とするグローバル教育と課題解決型の教育です。学院の伝統である英語教育は小学校から高等学校までの12年間で、実践的なコミュニケーションに役立つ生きた英語が習得できます。また21世紀は予測不可能な時代で、過去から学ぶだけではなく、自ら考え、課題を解決する力が必要になります。「神から授かった命を活かしなさい」とカトリックの教えにもあるように、人のために生きる喜びを

知り、隣人を思いやって生きることによって、考える力や創造性が育まれます。そうした主体的且つ対話的な深い学びは、今の教育に必要不可欠なものです。

宮本：聖母被昇天学院は、豊かな人格を持った女性を育成し、社会を変えていく力となることを目指して設立されました。男女共学になったことで、男女が互いに切磋琢磨し、共に成長できる教育の場であること。伝統ある教育理念を基本としながら、時代に合わせて多様性を意識した教育改革を進めていくことが大切だと感じます。

高橋：今、宮本理事長がおっしゃったように、創立から受け継ぐ女子教育の理念を活かしていくことがとても重要です。丁寧さや誠実さ、また隣人愛を育む教育は、女子教育を通して養うことができたものです。現在のグローバル社会において、女子教育の良さはジェンダーを超えた教育改革に活かすことができます。それは、本学院が元々持っている独自性をさらに推進できるということ。そこにアドバンテージがあります。アサンプション国際の教育の可能性は、将来に向けて大きく広がると確信しています。

■ グローバル社会に必要な教育とは。

丹澤：今お話をありました「これからのグローバル社会」において、アサンプション国際の教育理念や今後の教育のあり方として、どのようなことが大切だとお考えですか。

宮本：アサンプション国際には世界に広がるネットワークがあります。その交流を通して学ぶことはとても重要です。また近年は日本に多くの外国の方が訪れ、私たちの身近な存在になっています。これまで以上に、国際的な感覚や視野を持つことが大切な時代です。自分がどこにいても世界の人々のためにできることが必ずあります。「人と人、心と心の関わりを大切にして生きる」それがアサンプション国際の教育理念であり、これからも変わることのない教育のあり方です。



丹澤：21世紀を生き抜くために大切なこと、また必要な教育とはどのようなものでしょうか。

今、必要な教育。それは、アサンプション国際が創設時から培ってきたものです。



高橋：何事も自分で考えるということ。そして考えの根底には、人のため、社会のため、世の中を良くするため、という観点が大切です。実は、日本の教育のあり方は明治以降からあまり変わっていません。知識や情報を与えられ、覚えたかどうかでテストをする。西洋文化に追いつけ追い越せと言う教育でした。それから150年たった今、次の時代を見据えた時に、日本の教育はただ覚えるだけでは駄目だということが明確になってきました。人間教育をベースに、自ら考え、英語を駆使して自分の言葉で世界に発信する。それが、21世紀を強く生き抜くために必要な力です。

■ 学院のモットーを実現するために。

丹澤：学院のモットー「誠実・隣人愛・喜び」と「世界の平和に貢献する人の育成」の実現のために、大切なことは何でしょうか。

宮本：学院のモットー「誠実・隣人愛・喜び」は、シスターが学院を設立される中で、様々な困難を乗り越えられ、そこで生み出された言葉です。私たちも、日々の学院生活の中で様々な体験を通して「誠実・隣人愛・喜び」を共に確認し、日々振り返ることが大切です。自分を知る時間、周りを見る時間、そして深く考えて判断すること。人には、そうした精神性を深める時間が必要です。すべての人は固有の使命を持って、この世に生を受けています。どんな職業に就いても、社会に役立ち、平和に貢献することができます。自らの使命を考え、見つける。それを実現することが教育の大きな目的です。

高橋：「誠実」に「隣人愛」を持って生きる。その先に得ることが出

来る「喜び」があると考えます。誠実さや隣人愛、喜びに溢れた校風は本学院の優れた特長です。この校風は、歴史ある女子教育の中で培われたものですが、共学になった今、男子生徒にもこの空間や時間の素晴らしさを伝えていきたいと考えます。また、「平和」とは心を穏やかに過ごすことを意味しています。「誠実・隣人愛・喜び」を持って生きることで、自ずと世界の平和に貢献できる人になります。卒業してからも、かけがえのない空間であり時間だったと振り返り、実感できる場でありたいと思います。

丹澤：私自身、幼少期から思春期にかけ本学院を居場所として過ごせたことを大変感謝しております。理事長・副理事長がお話をされたように本校のモットーのお陰で、自分だけが良ければよい・自分の社会だけが良ければよい・自分の国だけが良ければよいという考え方ではなく、世界の平和に目を向け、そこでどのように人と関わり、どう貢献できるのかを学ぶことができました。やはりその時、人と人、心と心のコミュニケーションを礎とする本学院の伝統である英語教育が生かされました。これは、本校のアサンプション国際21世紀型教育で「思考力」を養い、現在の世界の潮流である多様性社会の中で、ともに生きるために手段として「英語」を用い、持続可能に発展する社会を作ることに繋がっていと信じています。

宮本：丹澤校長は、アサンプション国際の小学校・中学校高等学校をまとめる初めての校長です。学院全体を見ていただけることに、とても心強く感じています。また、丹澤校長の素敵なスマイルで、大きく、優しく、学院全体を包んでいただけることをとても嬉しく感じています。

高橋：今後は、一人ひとりの個性や成長に合わせた独自の一貫教育を作り上げていきたいと考えています。小学校・中学校高等学校すべてを丹澤校長に見ていただく意味が、そこにある。伝統を継承し、そしてアサンプション国際の新たな未来に向かって躍されることを大いに期待しています。

卒業生として
学校長として
学院の素晴らしさを
引き継いでいきます！



丹澤：我々教職員が大切にしていることは、子供たち一人ひとりの個性を大切に、多様性を受け入れる寛容な心の教育です。子供たちの個性は成長するにつれ価値へと変わります。これは1~2年で行えることではなく、小学校・中学校・高等学校を保持する学院の強みの教育であり真価でもあります。卒業生として、そして学校長として学院の伝統である豊かな心の教育形成を引き継ぎ、21世紀の世界を切り開いていける学院となるように努めるのが私の使命だと考えております。本日は、大変貴重なお言葉をお聞かせ頂き本当に有難うございました。